

令和6年度第1回小金井市児童館運営審議会

日時 令和6年9月17日(火) 午前10時～午前10時45分
場所 前原暫定集会施設 2階 B会議室
出席委員 5人
会長 荻上 健太郎 委員
委員 高橋 秀樹 委員 飯島 知子 委員
山本 賢 委員 伊藤 安寿華 委員
欠席委員 4人
委員 村澤 トキイ 委員 門脇 利種 委員
小柳 政憲 委員 新井 利夫 委員

事務局 児童青少年課長 平岡 美佐
児童青少年係長 鈴木 拓也
貫井南児童館 森 直人
本町児童館 鈴木 慎一
緑児童館 牧野 亜季
東児童館 仲村マネージャー

傍聴者 2人

1 開会

平岡課長

本日はお忙しい中、御出席いただき誠にありがとうございます。令和6年度第1回小金井市児童館運営審議会を始めさせていただきます。私は児童青少年課長をしております平岡と申します。よろしくお願い申し上げます。

開会に先立ちまして、事務局から何点か御案内させていただきます。

本日の審議会につきましては、門脇委員から欠席の連絡をいただいております。なお、今現在、小柳委員と村澤委員と新井委員が遅れていらっしゃるというところでお見えになってございますが、現時点で会議充足数となっておりますので、先に進行させていただきたいと存じます。なお、伊藤委員につきましては、オンラインでの参加となっておりますので、よろしくお願いいたします。

本日の配布資料でございますが、次第のほか、次第の下部に配布資料の一覧を記載してございますので、御確認の上、不足等ございましたら事務局にお申し出ください。

最後に、本審議会につきましては、会議録作成のため録音させていただきますので、発言の際にはお名前をおっしゃっていただけてからの御発言を、御協力よろしくお願い申し上げます。

それでは議題に入りたいと思いますので、ここからは会長に進行をお願いいたします。

荻上会長

皆様、おはようございます。会長を務めさせていただきます荻上と申します。本日もよろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから令和6年度第1回小金井市児童館運営審議会を開会させていただきます。

初めに、事務局から本日の流れについて御説明をお願いいたします。

鈴木係長

本日の議題は2件となります。

1点目が、令和5年度の児童館事業の実施結果について児童館職員から説明させていただきます。その後、質疑応答の時間を設けさせていただきます。

2点目が、児童館のあり方検討の今後の進め方等について事務局から説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上となります。

2 議題

荻上会長

ありがとうございました。

それでは、本日の議題に入ってまいりたいと思います。

議題(1)児童館事業についてを議題といたします。

事務局から御説明をお願いいたします。

貫井南児童館 森

令和5年度の児童館事業ということですが、まず全体的な報告をさせていただきます。その後で各児童館、本町児童館から順に4館の説明をさせていただきます。

全体的なことといいますと、資料はお手元にお渡ししているのが来館者数の

表です。その後に各児童館の事業については表にまとめさせていただいておりますので、御覧になっていただければと思います。

令和2年度よりコロナ感染対策ということが、児童館事業の頭に必ず付いてきました。令和5年5月のゴールデンウィーク明けだったと記憶しておりますが、感染症が5類の対応になったところですが、基本的には、それまでコロナ禍の中で、国や自治体の感染対策等に合わせながら事業を縮小したり、見直したりというのを繰り返してきました。5類になった前後でどうなったかについてですが、最後まで課題として残ったことが3つあります。児童館内での調理事業と飲食、おやつ持込み、マスクの着用、この3点については、コロナが5類になった前後で見直しを図りまして、令和4年度の3月ぐらいに調理を行いました。それから、児童館内で作ったものをみんなで食べるということも含めて、元に戻したということになります。おやつについても、感染対策を当然行いながらですが、それまで持ってきたとしても食べさせなかった子どもたちのおやつも、基本的にはこれまでどおりOKとしましたし、マスクの着用については、令和5年3月に個人の判断に変更されたと思います。しかしながら、市内の小中学校で年度末までは着用ということになっていたもので、あまりこちらでも強く打ち出さなかったのですが、新年度を迎えてからは、児童館の中で遊ぶ際に関してマスクは付けなくていいこととしました。

全体的に令和5年度については、令和元年度の事業の水準まで戻しました。特に宿泊を伴った夏休みの行事や遠足とか、そういうものも全てそれまでのとおりに行うことによって、コロナ禍での児童館の事業というのは基本的には元に戻ったとお考えいただきたいと思います。

というところで各館の事業に移らせていただきます。よろしくお願いします。

本町児童館 鈴木

令和5年度の本町児童館の様子を報告いたします。

乳幼児に対する事業です。令和4年度までの子育てひろば事業は、乳幼児のつどいという名称で開催しておりましたが、令和5年度からは新たな愛称、ぽかぽかひろばという名前を設け、より一層、乳幼児と保護者から親しみやすいひろばとして開設してきました。

令和5年度の特徴といたしまして、昼食を取って午後まで遊んでいく姿があり、午前10時から開始で午後2時まで目一杯遊んでいく親子の姿が見られました。誕生日会などのイベントの日には、地域のボランティアによる楽器の演奏会や大きな絵本の読み聞かせなどを行い、そちらも大変盛り上がりました。また、幼児グループは、火曜日、金曜日の参加者数がほぼ同じで10組前後だったのですが、参加者は仲良く協力しあって、まとまりのある活動を作っていました。

次に、小学生に対する事業です。令和5年度は、遊戯室で走り回ったり、ボール遊びや卓球やマット遊びなどをしたりして存分に体を動かして遊んでいました。ただし、遊戯室を使いたい子どもたちは、年齢などでやりたい遊びが違うので、時間やスペースについて職員による調整が必要となりました。グループ活動では、月に1回おやつ作りを実施すると、参加者はその日だけは休ま

いと必死に参加してくれました。また、年度末には、児童館縁日を開催し、参加者は400人を超える盛大な開催となりました。

令和4年度との大きな違いは、調理を伴う事業について、野外調理、おやつ作り共に年度当初からグループ活動で月1回程度行うことができました。

中高校生世代に対する事業です。中学生の利用は、部活動がない平日や土曜日、さらに中間、期末の定期試験期間前後が多くなります。勉強するために来館する中高校生世代もいますが、調べ物をしたくてスマホ等でWi-Fiが使いたくても回線がない、単純に小学生が遊ぶ声がうるさくて勉強に集中できないなどの意見ももらい、限られた館内で中高校生世代専用の居場所を確保することがこの世代にとっては重要なポイントとなると思います。

令和5年度の本町児童館の特徴は以上となります。

東児童館 仲村

令和5年度の東児童館の報告をさせていただきます。

乳幼児と保護者に対する事業です。常設子育て広場は、令和4年度まで月曜から土曜の午前10時から午後4時まで開場していましたが、利用者懇談会等でもっと早くから開けてほしいとの意見が以前から出ていました。そこで、開場時間を30分早め、午前9時30分からに変更いたしました。昨年度1年間で250組程度の利用があり、上の子を幼稚園に送った後にそのまま来られて利用しやすい、午前中に長く遊べて児童館で昼食を取って帰れていいといった声もあり、好評でした。

また、毎年行っている広場のアンケートで、以前より行ってほしいという意見が多かった、1歳児のグループ活動を始めました。児童館で元から行っていた2歳児の幼児グループを少し簡易的にし、隔週での活動でしたが、25組を超える参加がありました。近隣だけでなく、武蔵小金井方面に住んでいる親子の参加もありました。

幼児グループは、令和4年度と同じぐらいの人数、11組から15組程度でしたが、調理や会食の機会が増えたことで保護者同士の関わりも深くなったように感じました。

小学生に対する事業です。自由来館は4年生と5年生の利用が多くありました。土曜日は、普段学童保育所に通っている子の利用が多く、平日も学童を休んで児童館に遊びにくる子も増えました。やはり携帯ゲーム機で遊ぶ子が多くいたのですが、持ち物の管理ができていない子がほとんどで、ゲーム機などの貴重品を放置して遊ぶ姿も多々見られました。職員も声がけを行いました、なかなか改善せず、職員も対応に追われました。

グループ活動は毎週になったことでチームワークも上がり、子ども縁日では協力して出店する姿も見られました。イベントでは、調理の復活や夏期クラブなどの宿泊の復活が特に喜ばれました。

中高生世代に対する事業です。毎週水曜日の夜間開館事業は、令和4年度は参加者が減り、少しさみしい状態でしたが、4月から中学校1年生の参加が多くあり、賑わいました。コロナ禍で制限されていた世代でもあるため、特にパン作りやお菓子作りなど、料理のイベントは喜んで参加していました。また、

中高生世代の対象の遠足や宿泊行事も行いました。彼らの希望から、もともと宿泊は年1回だったのですが、3月にももう一度行い、年2回行いました。

遠足やお化け屋敷、ハロウィンパーティーなど、様々な行事にボランティアとしても参加してくれました。夏期クラブは久々の宿泊ありの開催となりましたが、以前リーダーだった社会人ボランティアも多数協力してくれました。

地域や関係機関との連携した取組としましては、数年ぶりに地域団体に御協力いただき、ハロウィンパーティーを実施しました。留学生との交流もできるいい機会となり、また、近隣の店舗に御協力いただいたので、地域との交流の場にもなりました。

東京学芸大学の学生がマンガイラスト教室で講師を務めてくださっているのですが、マンガイラスト教室以外にもお化け屋敷や子ども縁日など、行事のボランティアとしても参加してくれました。

以上です。

緑児童館 牧野

去年度の緑児童館の報告をさせていただきます。

まず、全体的な来館者数についてです。令和4年度と比較しまして、人数は2,500人程度増えました。内訳としては、乳幼児と高校生世代が少しずつ減少しまして、小学生と中学生の利用が大幅に増えました。行事の内容や定員をほぼコロナ以前に戻したことが、来館者が増えた一つの要因となっていると考えられます。

乳幼児の利用についてです。0歳児、1歳児、年齢別の合流の日は、毎日約10分から20分移動がありました。幼児グループについてですが、参加申込みが年々減っており、令和4年度まで2つのグループで活動していましたが、令和5年度はそれを統合して1つのグループにしました。結果、10組程度の親子が参加しました。グループ活動では4年度までやっていた曜日の活動がなくなってしまったので、そちらについては子育て広場、2歳児以上の日を設定しまして、幼児グループの同じ世代の子たちが自由に来館して遊べるようにしました。イベントも行いまして、室内アスレチックや簡単な工作なども行いました。ただ、まだ認知がされておらず、予想より利用人数は少なかったです。

幼児グループ世代の利用は年々減少していますが、利用者からの情報としては、平日、保育園に通っている幼児が増えていたり、また幼稚園で4年保育というのが始まっているところが増えてきたりしているようで、そちらに通う子が増えてきているのが原因だと考えられています。

それから、乳幼児離乳食講習会や幼児グループ内での調理、会食を再開しました。

続いて、小学生についてです。来館者が多かった学年は小学校4、5、6年生、中学1年生の利用が多かったです。令和6年度現在も昨年度利用が多かった学年はそのまま持ち上がって、現在も利用が多い状況となっています。昨年度からおやつを館内で自由に食べることが解禁になりましたので、ゲームをしたり、おしゃべりをしたりしながらおやつを食べて、くつろいで遊んでいる子どもの姿が多く見られるようになりました。

小学生の利用について、近くにある緑小学校の放課後子ども教室の校庭開放があるのですが、そちらと行き来しながら遊んでいる子が多いです。広い校庭で遊んでいたときには学校に遊びに行き、また児童館に帰ってきておやつを食べたり、のんびりしたり、ゲームをしたり、ごっこ遊びをしたりなど、自由に遊んでいたときには児童館といったように、目的によって場所を変えて遊ぶ子どもの姿が見られました。

また、遊戯室、ボール遊びができる場所ですが、そちらの利用がとても多かったです。各学年の遊びたいグループによってやりたい目的が違いますので、例えば野球でしたりドッジボールでしたり、それぞれ一緒に遊ぶことがなかなか難しいので、時間交代制にして職員が調整して、交代しながら好きなことをして遊べるように設定しました。

続いて、中高校生世代についてです。中学生は特に部活の終わりに来館して少しボール遊びをして帰っていったり、地域の野球チームでつながりのある小学生を連れて、中学生と小学生と一緒に野球をして遊んでいたという姿が見られました。また、夏に行った夏期クラブでボランティアをしてくれた中高校生世代が、その後も時々児童館に顔を出してくれまして、一緒に小学生の遊び相手をしてくれたりして交流する姿が見られました。

ボランティアの活動についてですが、コロナ禍が明けまして、ボランティアの協力による行事が再開しました。行事や小学生、保護者による工作や調理ですとか、地域のボランティアによる手芸やクラフトの行事、それから、中高校生世代のボランティアによる洋菓子作りの行事などは定期的に行われました。緑児童館全体として、児童や利用状況や日常の様子がコロナ以前の形に戻った1年となりました。

以上です。

貫井南児童館 森

貫井南児童館の報告になります。資料4ページに貫井南児童館来館者数を掲載させていただいております。合計数で4館の中で最も利用者数は少ない児童館です。

その内訳で何が少ないかというと、乳幼児です。乳幼児が少ないということは保護者の数も少ないので、ここが一番4館で少なくなります。

理由については、児童館4つの中で唯一坂下にある児童館で、人口的にも少ないというところもありますけれども、坂を上ったところに子ども家庭支援センターがあったり、小学校の学童保育所や幼稚園、保育園もあったりするので、子育て環境は比較的いいということもあるので、利用者数が少ないということはあると思います。

特に0歳、1歳はそれなりに増えてはいるのですが、幼稚園に入る1年前ぐらいの2、3歳世代が特に少なく、幼児グループという活動についても2グループ予定はしていたのですが、1グループしか集まらなくて行わなかったということもあります。なので、幼児については、保護者も含めて来館者数が少ないということです。

小学生、中学生を見ていただくと分かるのですが、中学1年生が2,039

人来ており、小学校のどの学年と比較しても多いということが分かります。低学年が特に少ないということが見て分かると思うのですが、第四小学校、前原小学校の放課後子ども教室がほぼ毎日行われています。学校から一度帰ってから来なければいけない児童館に比べて、そのまま学校の帰りに寄れる放課後子ども教室のほうが子どもたちにとっても、保護者にとっても利便性などその他も含めて通いやすいということもあって、ここの2つの小学校に関しては、児童館の来館者層に入るのですが、基本的にそちらのほうに行くことが多いので、低学年がすごく少なく、高学年になるにつれて人数が多くなっていくというのが特徴です。

特に中学生に関しては、コロナ禍で部活動等ができなかった時期に、割と児童館は庭が広いということもあって利用が増えました。その影響はそのまま残っており、もともと中学生、高校生が多かった児童館ではあるのですが、コロナ禍でさらに増えました。日によって小学生の利用者数を中学生が超えることも珍しくなく、ほかの児童館では見られない傾向だと思います。その割には小学生と中学生のトラブル的なことはほとんどなく、うまく部屋を融通し合うというか、一緒に遊ぶわけではないのですが、棲み分けがきちんとできているというのが特徴です。

基本的に、行事を行うと低学年のほうが多いのですが、ここに見られる数値以上に日常では1、2年生は少ないと思います。今年度に関しては5、6年生が多く、中学生も2年生が一番多くなると思います。

行事に関しては、調理ができるようになったので、月1回を目処に料理の行事を入れています。行事全体として申込みは多いのですが、料理の行事に関してはすぐにいっぱいになり、人気がある状況です。

中高校生に関しては、夜間開館を東児童館と同様に週1回行っております。週末の金曜日に行っていますが、先ほど言った中学校を含めると1年生が多く、どちらかという行事をやろうというよりもみんなでわいわい遊んでおり、そういった意味では盛り上がりはいるのですが、この子たちがその後、いろいろな行事でボランティアをしたり、地域のために何かやってくれたりしています。

以上です。

荻上会長

御説明ありがとうございました。

ただいま令和5年度の児童館事業について御報告をいただきましたけれども、御意見や御質問などがございましたらお受けしたいと思いますが、皆様、いかがでしょうか。

貫井南児童館 森

すみません、追加で報告し忘れたことがあって、1つよろしいですか。

貫井南児童館は、今、言いましたように前原小学校、小金井第四小学校、一部南小学校の児童が遊びにくるのですが、緑児童館は緑小、東児童館は東小というように、学区の真っ只中にある児童館ではなく、割と地域が分かれているということもあるので、前原小学校や小金井第四小学校の放課後子ども教室で世話人をやってくださる方とか、各小学校の地域コーディネーターの方や、児

童館のすぐそばにまた明日という、地域寄り合い所と呼ばれていますが、地域で保育園やお年寄りのデイサービスなどをされているNPOの団体があるのですが、そういった人たちとつながりを持つということ、児童館の中で定期的に懇談会を開いているのですが、特にまた明日の皆様とはかなり懇意になりました、一緒に何か子どもたちのために事業ができたらいいなということで、畑で作物、野菜を育てて収穫し、それを使った料理イベントを児童館の中で行うという取組を令和5年度から行いました。これについては、継続ということで今年度もやっております。

最近、保護者の方が日常的に平日いらっしやらないということもあるのですが、児童館の中でそういう活動が難しくなっている中で、地域のつながりでいろいろな大人の方と関係を持てているということはすごくありがたく、今後も力を入れていきたいと思っております。

荻上会長

追加の御説明ありがとうございました。

改めて、御質問や御意見、コメントなどございましたらお願いいたします。

高橋会長職務代理

中高生の夜間開館事業が2館行われていて、ほかの2館は行われていないのには、何か事情があるのでしょうか。

荻上会長

事務局、御説明ありましたらお願いいたします。

貫井南児童館 森

全体的な事情ということでお話をさせていただきます。

平成15年度より貫井南児童館で、中高生が児童館を利用するには開館時間が短いという意見があったことを受けて、試行的に隔週で行ったのが始まりです。東児童館の運営を平成18年度に委託したときに、中高校生の居場所づくりというのを委託事業の中に組み込み、毎週水曜日行うようになりました。貫井も毎週行うようになってから大体10年ぐらいたってはいるのですが、開館時間の延長は試行事業という位置づけなので、見直しを図って児童館の開館時間等を変えていく必要があるということは我々も課題としては認識しています。

本町児童館と緑児童館で行っていないということについては、何点か理由がありまして、一つは試行の中で始めていなかったということもあるのですが、夜8時まで行うには、近隣の理解をいただかなければならないことと、やはり中高生ですので、行動範囲が小学生より広いので、今のところ2館で足りているのではないかとということで、これについては御意見をいただきながら、見直しが必要な要因があれば検討していきたいと思っております。

高橋会長職務代理

どうもありがとうございます。

荻上会長

高橋委員、ありがとうございます。

ほかに皆様から御意見、御質問、コメントなどございましたらお願いいたします。

本日オンラインで参加いただいている伊藤委員も、もしコメント、御質問、御意見などございましたらお願いいたします。

鈴木係長

伊藤委員から今、チャットでコメントをいただきましたので御紹介させていただきます。

今の中高生の居場所事業のことについてですが、本町、緑でもニーズがあったときにはぜひ御検討をお願いしますというコメントをいただいております。

以上です。

荻上会長

伊藤委員もオンラインでコメントいただきありがとうございました。

ほかに、皆さん、いかがでしょうか。

私からも一つ御質問させていただきたいのですが、

御報告の中で、ボランティアに関するコメントが幾つか出ていたかと思うのですが、改めて、令和5年度以降、5類に移行して以降というところで、子どもや社会人のボランティアが増えたという御報告もあったり、一方で平日の参加が少ないみたいなお話もあったりしたかと思うのですが、それぞれ館によって事情が違ったり、あるいは日常的なものイベントとかでもそれぞれ違ったりするかと思うのですが、令和5年度ボランティアに関連するところで特徴的なこととか、皆さんが見ていること、感じていらっしゃるかもしれないのがあれば、重複するところがあるかもしれませんが、補足をお願いできればと思います。よろしくをお願いします。

貫井南児童館 森

今の御質問ですが、ボランティアは中高生世代ということによろしいでしょうか。

荻上会長

もしよろしければ、中高生、子どものボランティア参加と大人の社会人の言及もありましたので、よろしければ両方お願いできればと思います。

貫井南児童館 森

それまで児童館事業には様々な世代のボランティアがいました。しかし、令和2年度のコロナ禍以降、児童館事業が減ったということと、ボランティアの受入れを一時制限していた関係で、小学生の保護者やそのOBの方がボランティアとして活動していた行事がなくなり、児童館の中で活動していたグループに関しては、そのまま活動が停止になり解散してしまったところが結構多かったと思います。

特に本町児童館で50年ぐらい活動していただいていたひまわり会という大きな絵本を作って上映してくださっていた方々は、御高齢ということもあったので、一つの目処をつけてそこで解散をしてしまったということもありますし、保護者もなかなか、特にコロナがだんだん収まってくるとお仕事が忙しくなったことで、なかなか戻るきっかけというのができずに、そのまま活動が終わってしまったということもあります。

ですので、どの児童館もボランティアがいない中で、職員が代わりに行ったり、緑児童館では新たな保護者の人たちにまたお願いしたり、そこはかなり切り替わってしまいました。

あと若者というか中高生世代以上の20代ぐらいまでの人たちの話ですが、コロナ禍が3年ぐらい続いたので多分お分かりだと思うのですが、6年生が高校生になっています。その間も利用者として顔は出していたけれども、ボランティアする機会がなく、中学生や高校生が大人になり児童館に来なくなってしまったというのはよくありました。

ただ、日常的な活動、例えば東児童館や貫井南児童館の夜間開館も継続して

行ってきていたので、関係性が途切れることなく、ボランティアとして戻ってきたという傾向がこの2館では大きいと思います。ただ、緑児童館のように、活動がなくなり、それまで活動してきた人たちは引退した状態になって、新たに今、来ている中学生、高校生を育てていかなければいけない状況となっている児童館もあるので、最初に会長がおっしゃられたように各館によって状況は違いますが、何とか関係性は持ち続けられるよう、頑張っているところです。

荻上会長

御説明ありがとうございました。

では、ほかに皆さんから何かコメント、御質問などございますでしょうか。

ありがとうございました。では、一旦議題1については以上とさせていただきます。

ければと思います。

続きまして、議題2に移りたいと思います。議題2は児童館のあり方検討についてとなります。

続きまして、議題2に移りたいと思います。議題2は児童館のあり方検討についてとなります。

では、事務局から御説明をお願いいたします。

鈴木係長

前回の審議会の際に、あり方検討の骨子案を作成するに当たり、検討材料にする予定としておりました次期のびゆくこどもプラン策定に当たっての市民ニーズ調査の中間報告の資料をお示しさせていただいたところですが、このたびその報告書がまとまりました。

本日、机にお配りさせていただいております資料2につきましては、その報告書のうち児童館事業に関連する部分を抜粋してまとめた資料となっております。当初の予定ですと、この報告書の分析を元に骨子案を作成した上で、あり方の検討を進めていく予定としておりましたが、現在、国のこども家庭審議会、こどもの居場所部会において、児童厚生施設及び放課後児童クラブに関する専門委員会というものが設置されておりまして、児童館運営の指針となる児童館ガイドラインの改正に向けた検討が今、行われております。

具体的な検討内容につきましては、配布した資料3を御覧いただければと思いますが、児童館のあり方検討を進める上で、この改訂後のガイドラインの内容を踏まえる必要があるだろうと考えているところです。

改正後のガイドラインは、国の予定ですと10月以降に示される予定となっておりますので、当初の予定より後ろ倒しとなり誠に申し訳ございませんが、その内容を踏まえたあり方検討の骨子案を次回以降の審議会においてお示しをさせていただければと思います。

なお、次回の審議会開催前に委員の皆様にご共有できる資料等ができた際には、その都度、共有を図った上で審議会を開催したいと考えておりますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、本日お配りした資料2、資料3を、お時間があるときで結構ですので、お読みいただくと大変ありがたく思います。

事務局からは以上です。

荻上会長

ありがとうございました。

ただいま事務局から御報告いただきましたけれども、御報告について皆様から何か御意見、あるいは御質問などございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。児童館ガイドラインの改正は10月以降ということで

したので、事前資料なども含めて次回の審議会でも扱えればと思いますのでよろしく願いいたします。

では、特にないようでしたら、議題2については以上とさせていただきますと思います。

続きまして、最後に議題3、その他になりますけれども、何か事務局のほうからございますでしょうか。

鈴木係長

次回の審議会の日程について御説明をさせていただきたいと思います。

現在のところ、開催は12月を予定したいと思っております。また会長と日程調整させていただいた上で、皆様にお知らせさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

荻上会長

ありがとうございました。

以上で本日用意しております議題は全て終了となりますけれども、何か委員の皆様の方から御発言などございましたらいただければと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、特にないようでしたら、以上をもちまして、令和6年度第1回小金井市児童館運営審議会を閉会とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。